



## 雨の手のひら

藤岡 成子

(兵庫)

あぢさると蛙と蝸牛と雨粒と、風待月の美しきカルテット

鮮やかにあぢさる咲きぬをばちやんのゐない庭にも時間は流れ

ぼつぼつりぼつりぼつりぼつりぼつりわれを眠らす雨の手のひら

空想の行き着く所に咲いてゐるわたしのものにならない黄薔薇

ジュエリーは疾うの昔に捨てましたなのに拾ふよルシフェルの手が

知らん間にモードの歳になつてもたどつかにハロルドいやしまへんか

あと何年人に頼らず旅できるか飛行機雲はぐんぐん伸びる

在宅で仕事をする子パソコンに何度も何度もお辞儀してをり

青年のニキビ好ましひさかたのひかりたつぷり持ちあふる証

すがすがと洗濯したてのやうな月 山の端に見えスキップをする

目のくらみさうな暑さに狼狽へぬ史上最短で梅雨は明けたり

煽ち風にテングノハウチワひるがへり三十八度の陽が屈折す

「水飲もな」常套挨拶かはしたる人運ばれぬ熱中症で

みづいろのあさがほ開くコロナ禍もロシア侵攻も嗚呼マンネリ化

星月夜の回転木馬まはりをらん星の子たちの歓声乗せて

このごろの私

老いの一人暮らし。食事会、  
詩吟、ウォーキング等、楽しい  
ことは何でも率先して参加  
する。人に頼らず、自由を満  
喫するこの生活が一日でも長  
く続くようにと願う。もちろ  
ん、短歌を第一として！



## 夏至のあとさき

上野 成  
(新潟)

このごろの私  
日本海を望む防砂林斜面に  
ある保育園にパート勤務のほ  
か、生産組合の作業手伝いや  
妻との畑仕事、町内会や長峰  
城保護保存活動にも従事。結  
構多忙。七十二歳になった今  
でも、老けてはいられません。

四時過ぎの鳥の目覚めの合図らしツバメのおしゃべりカラスの遠鳴き

目鼻だちくつきりと五弁の黄花つけカタバミ雨後の畑に咲きぬ

草むらの光は蛍か蝮だと祖母にたびたび聞かされおりし

竹ぼうきを抱えて兄とみだれとぶ蛍を追いつ六十年前

夜八時から三十分が勝負だと竹ぼうきを振り蛍追いにき

大蚊帳に蛍はなちて点滅を見つつい寝しを今さら思いぬ

ピーゴトン、ピーゴトンと夢うつつのなかに聞きいし夜汽車わく音

松の枝に羽づくろいしつつ四十雀糞ひとたらしして飛び去りぬ

プランターのゴーヤ両手を広げきり揺れるネットの糸をとらえし

ゴーヤ蔓の触手に眼あるごとく確実にネットの側に伸びゆく

扇風機、エアコン、サーキュレーターの回転音のなかの児らのお昼寝

ひだり右おのおの向きをかえ眠る三人の児らの昼寝に添いぬ

待ちわびしはヒトのみならず雨もらい花壇を埋めるスベリヒユの葉

夏至近き午後の田畔に涼まんとザリガニ続々草かげに寄る

茄子の蒂の棘がさしたと梅雨明けの夕食準備の妻の騒がし